解説

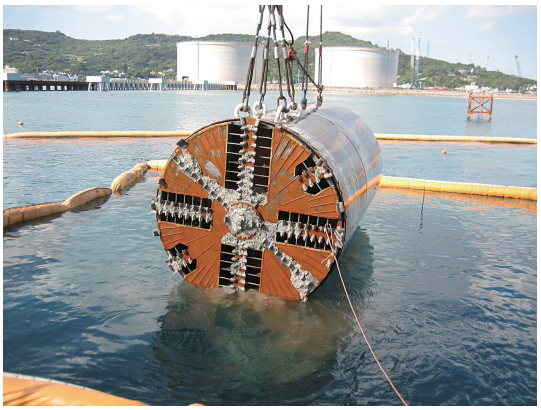
推進工事技士に求められるもの

犬窪（いぬくぼ）　和晃（かずあき）
機動建設工業㈱
北陸支店工事課係長
（推進工事技士）

1　はじめに

推進工事に携わり今年で13年目になりました。気づけば年号が令和に変わり、東京オリンピックも終わり、駆け抜けるように12年が過ぎたように思います。

私と推進工事との出会いは、就職活動中に調べていた書類の中で、目に止まった掘進機の写真です。推進工事に興味を持ち入社し、実際に施工している現場を見て凄い技術だと驚きました（**写真－1**）。



写真－1　新入社員の頃に見学した現場　海中到達　掘進機回収状況

現在私は、北陸地方を中心に現場の施工管理を行っています。パイプライン、送水管、下水管、改築推進と多岐にわたる分野で施工し、日々頑張っています。

生まれも育ちも南国鹿児島のため、初めて北陸に来た時に見た一面の雪景色は、美しく引き込まれるようでした。生まれ育った場所とは違う四季を感じたくて、スキーや釣りなど自然に触れ合うことを積極的に始めました。スキーに関しては、草スキーでしかしたことがありませんでした。初めは満足に立つことすらできず、滑るより転がる方が多く、次の日は全身が筋肉痛でしたが、諦めずに毎年チャレンジして中級者コースが滑れるまでになりました。今は、上級者コースを滑ることを目標にスキーを楽しんでいます（**写真－2、3**）。

2　資格取得を目指した理由

推進工事は、見えない地中を数少ない材料から、現状の予測を行い対応していかなければなりません。そのため、一般的な建設工事の技術に加え、推進管理として推進力、土量管理、切羽バランス、精度管理などの複数の管理項目が求められます。これらの管理を怠ると、出来形不良、推進管の破損、地上部の陥没などの重大事故に発展します。重大事故へ至るまでの原因は各現場の状況や土質などの様々な要因から起きているため、事故に進展しないよう日々の管理を行い、早めに対応していく必要があります。これらのことを踏まえ、自身の推進工法の知識を深め、現場をもっと上手く施工したいという思いで資格取得を目指しました。